



Cornell University

2020年12月 馬淵祐太

船井情報科学振興財団 第8回報告書

Cornell University、Department of Neurobiology and Behavior に所属し、神経科学を専攻している Ph.D.4年目の馬淵祐太です。毎回報告書の書き出しに時間が経つのが早いという旨の内容を書いている気がしますが、本当にあっという間に4年目を迎えてしまいました。COVID-19の感染者数は世界的に増え続けていますが、大学が全学生、教職員の検査を行い、ソーシャルディスタンスを保つ取り組みを徹底しているおかげで、今学期は研究に集中することができました。

1. 日常生活について

これまで車の免許を持っておらず、FOS2016年の鄭さんに定期的買い物に連れて行ってもらってもらい、ご迷惑をかけ続けてきましたが、渡米して4年目にしようやく免許を取得し、車を購入しました。これまでスーパーに行くのにUber やLyft も使用していましたが、パンデミックの影響でイサカ近辺ではドライバーが激減してしまいました。その結果、スーパーから帰る際に車を探しても30分から1時間近く待たなければならないことが何度かありました。その時間がもったいないと思ったのと、スーパーに行くたびにストレスを感じたくないと思い、車を買う決断をしました。

COVID-19の影響で1日あたりに試験を受けられる人数が大幅に制限されており、予約をしてから筆記試験を受けるのに2か月近く待たなければならなかったことを除けば、免許を取るのは思った以上に簡単でした。公式のウェブサイトに乗っている筆記試験の問題集で軽く勉強し、試験に合格してからは、ニューヨーク州では必須となっている4時間にわたるPre-lectureをオンラインで受けました。その後、イサカに来て最初の2年間ルームメイトだった友人に、週末1時間ほど車の練習に付き合ってもらい、その1週間後に路上試験を受けて無事合格しました。

筆記および路上試験を待っている間から車探しを始めていました。一番車を安く買うには友人や知り合いから買うのがベストだと思いますが、車を探していたのが11、12月くらいだったので、タイミング的に車を売ろうとしている知り合いを見つけることができませんでした。その次に安い車を探す方法はFacebookやCraigslist、eBayを使い、個人から車を購入することだと思います。ただ、イサカのような田舎ではそもそも車の選択肢が少ないほか、自分がそれらを利用して探した印象ではかなり古い車を売ろうとしていることが多かったです。また、Craigslistなどを使うと個人間のやり取りなので、比較的安い車を探しやすいですが、車に問題があることを隠して売ろうとする人もいます。お金を支払う前に購入予定の車を整備士のところにもっていき、問題がないか確認してもらうことである程度そうした問題

を防ぐことが可能なようですが、自分はそもそも欲しい車を前述のサイトで見つけることができませんでした。そういうわけで、一般的に一番高くつくといわれているディーラーから車を買うことにしました。日本では新車を買うことが多いと思いますが、アメリカでは中古車の市場が非常に大きく、需要も高いです。そのためディーラーに行くと、新車だけでなく、中古車がたくさん売られています。アメリカ人のラボメイトにいろいろと相談に乗ってもらったり、いろいろなサイトで調べたりした結果、自分は中古車を買うことにしました。新車を購入すると、故障が起こる可能性が低いので、そうしたトラブルに対処する必要がないメリットがありますが、アメリカでは購入後3年で車の価値は一気に下がると言われています。3年目以降はわりと緩やかに価値が下がっていくようです。そのため、車を将来的に売る時に得られる額を含め、トータルで支払わなければならない金額を考えると、5年間以上その車に乗る、長距離移動に車を使用する場合は新車を買うのは選択肢として悪くないようです。自分の場合、この先何年間イサカにいるのか、次の居住地に車を持っていけるのかもわからない状況に加え、通学と買い出し程度にしか車を使わない予定だったので、中古車を買うことに決めました。ネットでひたすら車を探し、いい車を見つけたらまず電話をしてその車がまだ店にあるかどうか聞き、試乗する日時を予約し、実際に試乗させてもらえるというプロセスを繰り返しました。面白いと思ったのが、試乗の際に店の人は同乗せず、好きに運転してきていいよと言われたことです。これがアメリカ全土で一般的なのかどうかは分かりませんが、自分が訪れたどのディーラーでも試乗は勝手にしてきていいよ、という謎のスタイルでした。もしぶついたらどうするんだよと思いつつ、複数回にわたって、いろいろな車を試乗しました。自分は2017年製以降の割と新しめの中古車を探していたのもあり、試乗したどの車も特に大きな問題はなく、Vehicle Historyなどを見せてもらっても問題ありませんでした。結局頭を悩まされることになったのは金額で、友人にも来てもらい複数のディーラーと値引きの交渉しました。大抵の場合、その場では値引きはしてくれませんでした。次の日になると、メールや電話で\$500-1000くらいの値引きの連絡がきました。それでも高いというと、それならこの車はどうだといったように他の選択肢を提示してくれました。そうした交渉をし始めた最初の2週間くらいは納得のいく金額の車が見つからず、毎日ネットで車の金額をチェックする日々でした。そんな中、かなり良いと思っていたけど値段が高いことがネックだった車が\$2500も値下がりしているのを見つけました。その車は、その日の朝の時点では元の金額がサイトに載っていましたが、夜になると\$2500値引きされており、見つけたときにすぐに電話をし、次の日に試乗する予約をし、実際に試乗してから購入を決めました。イサカから車で1時間ほど離れたところにあるディーラーでしたが、ルームメイトだった友人が車を出してくれたおかげで、車を買うことができました。自分が購入したのはCPO(Certified Pre-Owned)というタイプの車で、中古ではあるけれど、メーカーに品質が保証され、エンジンなどの故障の保証が延長されているものだったので、中古でしたが少しだけ安心して買うことができました。そういうわけで、まだ通学と近所の買い物だけですが、ここ最近はカーライフを満喫しています。これまで休日や祝日にはバスのスケジュールを確認して家と研究室の往復の時間を考慮する必要がありましたが、車を手に入れたおかげで、そうした小さなストレスから解放されました。

2. 研究生活について

大学院生は大学が提供するウェブページを通じて毎日健康状態を報告することが義務付けられているほか、週に一回COVID-19の検査を受けることになっています。大学内や研究室でもソーシャルディスタンスを保ち、マスク着用が求めています。各部屋に許容人数が割り当てられおり、自分しかほとんど使っていない部屋で実験することが多かったので、今学期はシフトなどを気にせず1日中実験できる状態でした。ラボミーティングや指導教官との個人的なミーティングは言うまでもなくすべてオンラインですが、特に30人以上などの大人数に対して自分が発表するようになるときに、相手の顔を見ることができず、一人で話し続けることになる状況にはいまだに慣れません。オンラインだとあまり緊張せずに済むという利点がありますが、やはり発表は相手の反応を見ることができる対面式の方が個人的には断然やりやすいです。

研究に関しては順調で、論文を仕上げる段階に近づいてきました。指導教官からは“Almost there!”という言葉がここ半年近く言われ続けていますが、そろそろ本当に大詰めかなと思っています。ちなみに指導教官は早く終わらせろとプッシュしてくるわけではなく、あと少しだから頑張ろうという意味で“Almost there!”と言っています笑 12月18日に開催された学部全体のシンポジウムで発表した後に、学部のchairからも論文にまとめる段階だと言われたので、論文をまとめる上で鍵となる実験を数か月以内に終えて、次の学期中には何とか論文を書き上げるころまで持っていけたらと思っています。

3. 最後に

依然として、ソーシャルディスタンスを保ちながら実験を行う状況ではありますが、大学がコロナ対策をしっかりとしているのと、大学がイサカという非常に小さい田舎町にあるお陰で、大学だけでなく、町としても感染者がそれほど出ず、大きな不安を抱くことがなく研究を行うことができる1学期間でした。例年、年末の時期に一時帰国をしていますが、今年はショウジョウバエの世話をしながら年を越すことになりそうです。

日本でもCOVID-19の感染者数が日に日に増加していますので、皆さん健康には気をつけ、健康にお過ごしください。最後になりましたが、常日頃よりご支援頂いている船井情報科学振興財団に感謝致します。